土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 藤井川 高潮対策事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名 藤井川 高潮対策事業に伴う業務委託

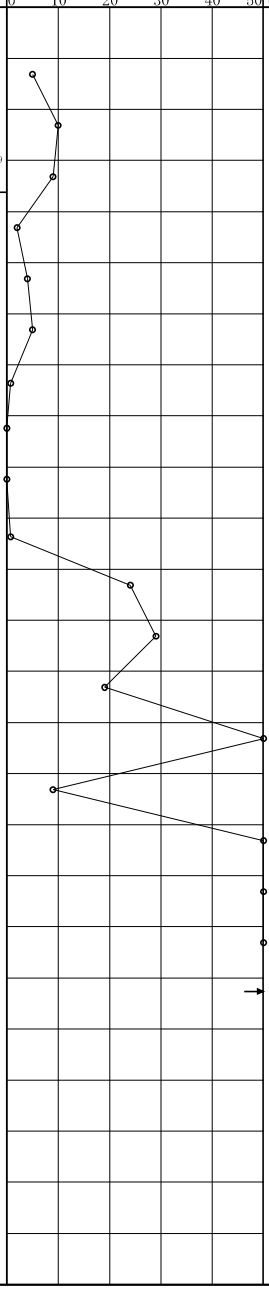
調査目的及び調査対象 河川 護岸

ボーリング名	No.R2	**調査位置**	広島県福山市高西町川尻			**北緯**	34° 26′ 17.2963″
発注機関	広島県東部建設事務所			**調査期間**	2022年 12月 16日 ～ 2022年 12月 22日	**東経**	133° 14′ 29.5303″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 2.72m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平 0° 鉛直 90° 28°
使用機種	**試錐機**	東邦地下工機 D1-B48					
総削孔長	19.00m	**エンジン**	ヤンマー NFD-12	**ポンプ**	東邦地下工機 BG-3C		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事
	2.52	0.20		盛土・シルト混じり砂	(SG-Cs)	暗褐			現世	表土に相当。草根を豊富に含む。
1				盛土・礫混じり砂	(SG-Cs)	淡褐	rd2			川砂様の砂層で、全体にサラサラとしている。礫分はφ10mm程度以下で、中礫分が多い。砂は細中砂が優勢する。GL-0.7mまで草根の侵入を認める。貫入試料の含水は低く、乾燥状態にある。
2					(SG-Cs)					
3	-0.28	3.00			(SCsG)					
				盛土・砂	(SG-Cs)	淡褐	rd2			礫分の含有量が減じ、細礫を微量混入するにとどまる。砂の粒径に変化はない。GL-3.62mに自然水位を認める。
4	-1.28	4.00								
	-1.73	4.45		シルト質砂		灰	rd1			層相、色調急変する。きわめて高含水で軟弱である。
	-1.98	4.70		礫混じり砂	(SCs-G)	灰				φ15mm以下の礫分を含有。砂は粗中砂からなる。
5				シルト混じり砂		暗青灰	rd1			均質な砂質土。砂分は中粗砂主体に、まれに細砂優勢の薄層を挟む。φ10mm以下の礫分を微量混入。含水は高い。
6	-3.28	6.00			(SCs-G)					
				シルト質砂		暗青灰	rd2			下方に細粒化する。砂分は中砂主体から細砂主体へ漸移。6.8m以深は細粒分がかなり多いが、カッターを刺せば砂音・感触を認める。かなり高含水。
7	-4.28	7.00			(CHS)				完新世	
8				シルト	(CH-S)	暗青灰		rc1		7.4mまでは微量の細砂を含有する。以深、全体に均質である。貝殻片と腐植物片を微量混入する。高含水できわめて軟質である。カッターの刃がほとんど抵抗なく突き刺さる。
9										
10	-7.28	10.00			(GS-Cs)	暗灰		rc1		貫入試料を指先で揉むと、細砂・中砂が残存する。高含水である。
	-7.83	10.55		砂質シルト		暗青灰				
11	-8.13	10.85		礫混じりシルト質砂						急激に粗粒化し、10.7m付近より細礫混じり～質となる。砂は中砂が優勢。
12	-10.13	12.85		砂礫	(SCsG)	淡灰	rd3			礫分はφ20mm程度以下。中礫分が多い。マトリクスは粗砂からなり、細粒分はあまり伴わない。含水は中位である。
13				礫混じり砂		淡灰	rd3			礫量を減じるが、細礫分は少なからず含有する。最大礫径は30mm。砂分は中砂主体と粗砂主体の所が繰り返す。
	-11.03	13.75			(GS-Cs)	緑灰				
14	-11.13	13.85		粘土						粘土の薄層。少し固い感がある。
				砂礫		淡灰褐	rd4		更新世	礫分はφ15mm以下主体。小径の中礫分が多い。最大径は35mm。マトリクスは粗砂からなる。含水は少し高い。
15	-12.33	15.05			(CL-S)					
	-12.73	15.45		砂質粘土		淡青灰		rc4		細砂を均等に含む。含水は中位。
16	-13.23	15.95		シルト混じり砂	(GS-Cs)	淡灰	rd4			均質な細砂。やや珪長質で明るい色調を呈す。微量の細粒分を含有。
				砂礫		淡灰				全体にやや不均質。礫分はφ25mm程度以下を主体に、大径のものは40～50mmに達す。マトリクスは粗中砂からなり、17.6m以深では少量の細粒分を伴っている。17.6～18.0m間のコア、表面的には礫分が少ないように見えるが、カッターの刃が突き刺さらない程度には礫分を含んでいる。18.5m以深、礫量が増している。全体に含水は中位である。
17						淡褐灰				
18						淡青灰				
19	-16.28	19.00								
20										
21										
22										
23										
24										

孔内水位／測定月日：12/19 3.62

標準貫入試験



N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
5	1.15 / 1.45	2	2	1	5/300		
10	2.15 / 2.45	4	3	3	10/300		
9	3.15 / 3.45	3	3	3	9/300		
2	4.15 / 4.45	1	1/200		2/300		
4	5.15 / 5.45	2	1	1	4/300		
5	6.15 / 6.45	2	2	1	5/300		
1	7.15 / 7.55	1/400			1/400		
0	8.00 / 8.45	モンケン自沈			0/450		450
0	9.00 / 9.45	モンケン自沈			0/450		450
1	10.15 / 10.55	1/400			1/400		
24	11.15 / 11.45	10	7	7	24/300		
29	12.15 / 12.45	10	11	8	29/300		
19	13.15 / 13.45	2	5	12	19/300		
50	14.15 / 14.45	17	15	18	50/300	300	
9	15.15 / 15.45	3	3	3	9/300		
50	16.15 / 16.45	15	15	20	50/300	300	
50	17.15 / 17.45	17	15	18	50/300	300	
50	18.15 / 18.45	19	15	16	50/300	300	
75	19.15 / 19.35	25	25		50/200	200	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
1.15 / 1.45	R2-P1	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		12/16
2.15 / 2.45	R2-P2	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
3.15 / 3.45	R2-P3	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
4.15 / 4.45	R2-P4	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
5.15 / 5.45	R2-P5	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
6.15 / 6.45	R2-P6	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
7.15 / 7.55	R2-P7	⊖	土粒子密度・含水比・粒度・液塑性		
9.00 / 9.45	R2-P9	⊖	土粒子密度・含水比・粒度・液塑性		12/19
11.15 / 11.45	R2-P11	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
13.15 / 13.45	R2-P13	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
14.15 / 14.45	R2-P14	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		12/20
15.15 / 15.45	R2-P15	⊖	土粒子密度・含水比・粒度・液塑性		
17.15 / 17.45	R2-P17	⊖	土粒子密度・含水比・粒度		
					12/21
					12/22